

岡山県立美術館（岡山市天神町）で開かれている「国吉康雄展」（山陽新聞社など主催）に合わせ、米国の国吉研究者ケイル・レヴィン・ニューヨーク市立大大学院教授が来日、同美術館で記念講演を行った。レヴィン氏は、作品に登場する張り子のとらなど日本の玩具に注目して、日米双方の伝統文化が交わり合って生み出された国吉芸術の獨創性を指摘した。（金居幹雄）

日米文化融合に獨創性

岡山市生まれの洋画家国吉康雄（一八八九—一九五三年）は一九〇六年、十七歳で渡米、米国のフオーク・アートを思わせる素朴な作風から出発、二度の渡欧を経て独自の女性像や暗喩に満ちた静物画を発表、米画壇で高い評価を得た。同展は、同美術館に寄託されている会社役員福武總一郎氏＝岡山市の「福武コレクション」を中心に油彩、版画、写真など国内の優品約四百点で画業をたどる。

レヴィン氏は、「桃太郎や倉敷張り子といった

岡山県立美術館展 国吉康雄 演説レヴィン氏



国吉康雄の研究成果を披露するレヴィン氏

少年時代に触れたものが大きく影響し、日米の文化を作品で融合させていた」との視点で研究に取り組む。講演では「二つの世界の狭間で、民衆文化、アイデンティティ、ヤスオ・クニヨシのアメ

「日本の張子の虎とが強調した。」

玩具描き故郷に思い



「日本の張子の虎とがらくた」(1932年、福武コレクション)

「らくた」に描かれた張り子のとらを「制作する前に一度だけ帰国（三一年十月〜三二年二月）したときに倉敷で買い集めたもの」と説明。さらに踏み込んで、「最初は作り手がとら年に生まれた子供ののために作ったという日本の玩具と、息子が誕生したときに米国の父親が配るたばこが描かれていて、息子の誕生に伴う誇りさと喜ぶを表す日本と米国の習慣について語っている」と指摘した。「鯉のぼり」を象徴する鯉のぼりを表し、画家として成功した米国の独立記念日の日付を入れたのは、国吉にとつて移住の身言葉「私の芸術の目標は、東洋の豊かな伝統と蓄積してきた私の経験および西洋の観点とを結び付けることだを引用。」「国吉の芸術の内容と様式を十分に理解するためには日米の文化や伝統の文脈において詳細に吟味する必要が」と締めくくった。

自身の不安感を感じさせ「逆さのテーブルとマスク」（四〇年）などに見られる仮面について、「伝統的な仮面をかぶる備中神楽や倉敷・阿智神社の祭りといった民衆文化が大きくかわっている」と結び付け、サーカス（岡山市）を見たに違いない」と新しい視点で語った。

レヴィン氏は、国吉自身の言葉「私の芸術の目標は、東洋の豊かな伝統と蓄積してきた私の経験および西洋の観点とを結び付けることだを引用。」

▽第33回正筆会岡山地区展
岡山市天神町、県神山文化プラザ（086-226-5005）23日まで。
全国規模のかな書団体・正筆会の岡山県支部・岡山正筆会所属の八十一人が出品。小野桂華「山幾重」写真展

▽第39回清流会書道展
天神山文化プラザ。23日まで。かな書団体・正筆会の主任総務の三宅白城が主宰する清流会の百四十六人が額や軸、屏風など多様な作品を発表。四季それぞれを詠んだ



新

聞

2006年(平成18年)4月21日 金曜日

文化

16